

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立福島高等学校(全日制)

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画(4月)				評価(総合)			
学校運営方針		校訓「正大」「剛毅」「優美」を胸に、自己実現のために努力を重ねるとともに、身に付けた豊かな人間力で社会に貢献する高い志を持つ人を育成する。			評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である	
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標			
【成果】 ・新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、時期に応じた対応ができた。 ・広報活動の強化に取り組み、本校の特徴と魅力を発信し続けた結果、志願倍率が有意に改善した。 ・コロナ禍の制約の中で、学校行事の新しい形を模索した結果、生徒の創造性、協働性が高まった。 【課題】 ・コロナ以前に戻るのではなく、これまでに培ったノウハウを生かしてポストコロナの学校経営に取り組むこと。	生徒と教師が「自ら考え、自ら判断する」機会の充実「福高新時代」開幕！		実社会の様々な課題を踏まえながら、良質かつ本質的な問いかけを行い、生徒が「自分には何ができるか」と主体的に考える機会を充実させることにより、生徒の課題解決能力とチャレンジする心を育てる。				
	より組織的で充実した教育活動の実施		目指す生徒像に示した能力を育成すべく各部が連携し、3年間を見通した組織的な教育活動を行う。朝課外を廃止し正課授業で勝負する。学科間連携の新学校設定教科・科目を始め、それぞれの特徴を生かした授業に取り組む。「観点別評価」をよりの確なものとする。「新たな学びプロジェクト」に引き続き全職員で取り組む。個別最適化された授業や業務の効率化に向け、ICTの積極的な活用を推進する。				
	関係機関との連携強化と地域に開かれた学校づくり		これまでに作り上げてきた地域社会との連携をより強化させながら、生徒により広い世界を体験させるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。また、そのような取組をホームページやSNS等も活用しながら積極的に発信し、本校の魅力の周知を図ることで、生徒募集のさらなる充実を目指す。				
量から質への転換と安全で健康的な環境づくり		令和4年度から取り組んできた「スクラップ&ビルド」に継続して取り組み、より大切なものに力を集中させる。地域とも連携しながら、感染症や災害など起こりうる危機を自分のこととして捉える意識を醸成する。超過勤務の削減に取り組むながら、生徒と教師が心身ともに健康で安心して教育活動に取り組める環境づくりに努める。					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教育推進部(教務課)	授業改善に基づく学力向上	授業の重要性を学校全体で共有し授業改善を行い、学力の伸長を図る。 「主体的・対話的で深い学び」を促進する授業を、企画・研修課と連携して実践する。 学習時間調査(年4回)を実施し、振り返りと検証を行う。					
	新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業と評価の実践	新教育課程編成時の理念を継承して、各科の特徴を生かし有機的に授業の充実を図る。 学期毎に各教科で評価方法を検討し適正な評価を行い、評価の妥当性、信頼性を高める。 観点別評価を充実させ、多様な資質を持つ生徒を多面的に評価する。					
	「総合的な探究の時間」のさらなる飛躍と継承	単元毎に育成する力を明確にするとともに、指導体制を整備して、探究活動を深化させる。 推進委員会を中心として「総合的な探究の時間」を円滑に運営する。(早めの計画立案、密な連絡調整) 地域の外部機関との連携を強化して、探究活動を充実させる。					
教育推進部(入試・広報課)	様々な層に向けた広報ツールの活用	生徒の意見を反映させ、本校の良さが存分に伝わる学校案内を作成する。 「もちの木」「アピールポイント」「学びマップ」「進路先一覧」など、各部署の意見を取り入れながら、対象を絞った資料を作成する。 ホームページ・SNSの特徴や反応の分析をし、効果的な情報発信を行う。					
	参加者の満足度を高めるPRの工夫	中学校訪問では在校生の情報提供などを通して連携を深めながら、各訪問に明確な目的を持ち行う。 中学生体験入学・中学校PTAなど外部からの来校には、全職員で受け入れる心構えで、最適で丁寧な対応を心掛ける。 県立高校合同説明会・中学校等での説明会では、広報の段階に応じた資料を用い、参加後の振り返りをもとに、次回さらによいものとなるよう検討する。					
	計画的で協働的な業務の遂行	各行事のスケジュールを細かく確認し、担当割や準備物の共有を早めに行う。 分掌会を定期的に開催し、全員が責任感を持ち、チームで業務に取り組む。 他分掌と連携を図りながら業務を進め、学校全体で入試・広報活動を行う体制を整える。					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
キャリア教育部 (進路指導課)	キャリア教育の充実による「夢を描き努力し続ける生徒」の育成	進路ガイダンス及び上級学校・企業訪問並びに面談を充実させ、進路意識の向上を図る。					
		「Classi」を活用して学校行事や進路学習等の見通しと振り返りの場を設定し、自己の生き方や進路を考える一助とする。					
		ボランティア活動、インターンシップ等の体験活動を通して勤労感・職業観を涵養する。					
	第一志望の進路実現に向けた心構えの育成と資質能力の向上	3年生の希望者を対象とした放課後講座の実施及び模試の実施・結果分析を通して進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。					
		小論文指導体制の強化とその指導の充実を図り、希望進路実現に必要な「読む力」「考える力」「書く力」を伸ばす。					
		就職・公務員希望者に向けたガイダンスや面接指導等を計画的に実施するとともに、外部講師を招聘した特別講座を実施するなど指導内容の充実を図る。					
進路選択及びその実現をサポートする情報の収集と発信	「進路のしおり」の内容の充実を図り、希望進路実現に資する情報を早期に提供すると共に、様々な進路指導の場で有効に活用する。						
	進路委員を中心とした組織的な取組による「進路だより」の発行を通して、より効果的な情報発信を行うことで進路への関心を高める。						
	進路選択及びその実現に資する掲示物を定期的に入れ替え、進路実現に向けた意欲の向上を図る。						
キャリア教育部 (企画・研修課)	生徒・教員の成長を促す行事の実施	各行事を行うにあたり、教員側と生徒側の目的・目標を明確にし、それらを全職員に浸透させる。					
		各行事の計画を早期に立て、課内の役割分担を明確にし、効果的な行事の実施に向けて一丸となり取り組む。					
		他分掌・係と綿密に連携を取り、より意義ある行事を実施する。					
	研修・図書館利用の活性化	ICTを活用した研究授業を、各教科1名実施する。また、本校の実状や課題に応じ、他分掌と協議しながら臨機応変に研修を実施する。					
		校外研修を積極的に告知し、参加を促す。					
		生徒主体の図書委員の活動を行い、授業での図書館活用を案内する。					
新たな学びプロジェクトへの取組を最大活用	職員間の連携を高め、学校全体で情報共有できる体制を整える。						
	活発な授業改善を促すために、授業参観や授業アンケートを十分に活用する。						
	校内・校外の効果的な実践等、教員へフィードバックを行う。						
生徒育成部 (生徒指導課)	問題行動・いじめの撲滅	いじめアンケートの実施、情報の共有化					
		規範意識育成の講習会実施及びDVD視聴等により正しい行動ができるように指導する。					
		SNSによるトラブルを未然に防ぐネットパトロールの実施					
	基本的な生活習慣の育成	自らを律することができるように、学校生活全般で心の発達を目指す指導をする。					
		生徒会活動の充実により、愛校心を養う。					
		部活動を活発にすることにより、基本的な生活習慣の向上を目指す。					
交通事故防止・交通マナーの向上	バイク及び自転車通学安全指導の実施により、通学マナーの向上を図る。						
	登下校指導の実施により、交通マナーの向上を図る。						

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
生徒指導部 (健康管理課)	生徒及び職員の心身の健康の保持増進	各種健康診断を実施し、年度当初における生徒の身体状況の基礎的な把握を行う。				
		学校・学年行事等に際して事前健康相談を実施し、生徒の心身状況を把握し報告する。				
		新型コロナウイルス感染防止に向けて、啓発活動を行う。				
		保健だよりを月1回発行し、健康や事故防止に関する注意喚起を行う。				
	学校管理下での事故防止の徹底	性と心の相談事業(1年生対象に性の講演会)を実施する。				
		生徒保健委員による救急法(含む熱中症対策)講演会を実施し、部活動や体育大会等の体育的行事における安全対策(熱中症予防対策等)を充実させる。				
		生徒美化委員会を中心に、校内美化と学習環境の整備を図る。				
		防災避難訓練を充実させ、防災意識の向上を図る。				
	担任・学年・教育相談委員会の連携・協力体制の確立	学期に1回の校内安全点検を実施し、危険箇所を把握するとともに担当部署に連絡・働きかけを行う。				
		危機管理マニュアルを作成・配布し、職員に周知徹底し、危機管理体制を整え、啓発する。				
		様々な問題を抱えた生徒に対し、学校全体で支援等を検討するために『教育相談委員会』をSC来校に合わせ月1回開催する。				
		生徒の保健室利用状況をクラス担任に毎日報告する。				
第1学年	メリハリつけて、 当たり前のことを当たり前	様々な問題を抱えた生徒に対し、学校全体で支援等を検討するために『教育相談委員会』をSC来校に合わせ月1回開催する。				
		生徒の保健室利用状況をクラス担任に毎日報告する。				
		3日連続欠席者に対して、実態に応じて担任・学年団により家庭訪問を実施する。				
	家庭学習の確立と基礎学力の向上	SC・SSW・訪問相談員による相談事業を実施する。				
		修学支援・特別支援コーディネーターによる業務を支援する。				
		挨拶する・時間を守る・約束を守る、などの当たり前のことを教員が率先して行い、生徒に模範となって示す。				
	進路意識の向上と進路目標の設定	遅刻・欠席・風紀違反の多い生徒に対して、学校や家庭での様子の連絡を密に行い、学年全体で協力して指導する。				
		学年行事や学校行事に積極的に参加し、学校の活性化に貢献できるように、メリハリをつけながら自己の思いや考えを表現しやすい雰囲気作りを行っていく。				
		学年行事や学校行事に積極的に参加し、学校の活性化に貢献できるように、メリハリをつけながら自己の思いや考えを表現しやすい雰囲気作りを行っていく。				
	学年が1つに	毎日の学習時間の記録、週ごとに課題一覧表の掲示など、様々な取り組みを実施する。				
		各クラス・各教科で連携を取りながら、適切な課題の設定を行い、家庭学習の充実と基礎学力の向上を図る。				
		教室整備・チャイム席・授業準備・課題提出の期限厳守を徹底し、学習に集中できる環境を整える。				
第2学年	【学習指導】 進路実現のための意識付けと 学力向上 落ち着いた学習環境づくり	進路ガイダンス・上級学校訪問の実施、オープンキャンパスへの参加を通して生徒の進路意識の向上を図る。				
		総合的な探究の時間やHR等で自己の進路とつながりを見つけ、考えながら、早期に進路目標を定め、それに向けて行動させる。				
	【進路指導】 生徒の進路目標の設定 情報の分析と個に応じた進路指導	スタディーサポートや進研模試などの外部模試を利用し、生徒の学習状況を把握しながら、1つ上のステージに上げられるよう二者・三者面談の充実を図る。				
		学年の教員全員が同じレベルの意識をもって動いていけるように、学年会議で目標の確認や意思の疎通を行う。				
	総合的な探究の時間の有効的な活用	各クラスの担任が中心となって、生徒1人1人の出席状況や成績、進路、学校やクラス内外での様子を把握し、それを学年全体で共有し、協力して指導する。				
		学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。				
【生徒指導】 基本的な生活習慣の確立と継続 生徒の主体的活動を図る方策の策定 集団と個の確立及び協働精神の育成	各科生徒の進路実現を見据えた学習指導を教科・学年・進路部で検討し、適切なアドバイスを与え、進路希望を明確にさせる。					
	授業の充実・家庭学習の充実に加え、各教科との連携を行い学力を向上させる。また、成績不振者の把握と指導を徹底する。					
教師間・学年団及び保護者との連携強化	教室環境の整美(バッグを机の横にかけ等)並びに毎時間の行動(チャイム席、授業準備、黙想等)をきちんと行わせる。					
	1カ年皆勤半数以上を目指す。服装指導の徹底化を図る。いじめアンケートや学校生活アンケートを活用し、「安心・安全な学校」づくりの実現を目指す。					
	生徒を学年行事の企画・運営に関わらせ、学校行事への積極的な活動に繋げさせる。主体的な活動を通して、生徒の連帯感や自立心を育成する。					
	各科の特色を明確にするとともに、学年全体で取り組むべき内容については一緒にやり遂げる達成感・充実感を味わわせる。					
	学年団(特に担任団)でこまめに話し、生徒の人間関係や進路希望について学年全体で把握をし、的確なアドバイスや助け合いを行う。					
	保護者と密に連絡を取り合い、生徒の出席状況、成績、学校での様子、家庭での様子等、相互に把握し、生徒の精神的安定や進路指導に繋げる。					

